

令和6年度 綾瀬市立綾南小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標	・よく学ぶ子 (実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得) ・よく考える子 (道の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成) ・高めあう子 (学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養) ～温かい未来を創造する人材(財)を育成する～
学校経営方針 (グランドデザイン)	令和6年度 綾瀬市立綾南小学校グランドデザイン 学校教育目標 ・よく学ぶ子 (実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得) ・よく考える子 (未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成) ・高めあう子 (学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養) ～温かい未来を創造する人材(財)を育成する～ 【綾瀬市が目指す子ども像】 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子 【教師の願い】 【学校の課題】 育てたい資質・能力 自分事として捉える力 粘り強く取り組む力 前向きに挑戦する力 思いやりをもって 人とつながろうとする力 【児童の実態】
今年度の重点目標	心と頭で考え、丁寧に行動する子

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく学ぶ子（実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」）」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	児童の9割が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、本校の児童が学習に前向きに取り組んでいることが分かります。教職員が指導の工夫や改善を組織として継続的に取り組んできたためと考えられます。今後も児童のつまずきに目を向けた授業改善を行い、児童や保護者が学習意欲の向上を実感できる授業づくりを引き続き目指していきます。
2 教育課程	児童は、学校行事やクラブ活動、委員会活動、係活動に積極的に参加している。	各行事や特別活動に積極的に取り組んだり、楽しく参加したりすることができたことがうかがえますが、主体的な活動になっていただこうかを検証することは今後の課題だと考えます。行事の目的を児童に十分理解させうえて、どんな活動をすればよいかを考えさせ、児童の思いが反映される活動を目指していきたいと思います。
3 児童・生徒指導	学校は、「よく考える子（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」）」を育てる指導を積極的に行っている。	各教科指導の中で、自分の考えをもつ時間を設定し、考えたことを伝える活動を重視してきましたが、今後も引き続き取り組んでいきたいと思っています。にこにこタイムの活動も含めて、友達に対して思いやりの気持ちをもった行動をすることで仲良く生活できることを、実体験から学んでいけるよう指導していきたいと思っています。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	一人ひとりの児童の個性を認めながら、もっている個性が生かされる学校づくりをしていく必要があると思っています。教職員は、日々の授業研究を怠らず、児童にとって楽しい授業を提供していくとともに、小さな悩みにも耳を傾け、一緒に解決していこうとする気持ちをもって取り組んでいきます。児童と教職員がともに成長を喜べるような学校を目指していきたいと思っています。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	日々の児童の見守りが基本ですが、毎月実施しているスクールアンケートに書かれていることから、いじめの兆しがないかを分析し、必要な聞き取り、適切な対応をしていきたいと思っています。いじめゼロ宣言の取り組みなどを通じて、いじめの起こらない学校の雰囲気も作っていきます。
6 保健管理	学校は、「高めあう子（学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」）」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	約9割の児童が、健康や安全に気をつけて、楽しく学習ができています。授業時間等は、児童も意識を高くもち学習に向かうことができていると思われます。しかし、校地内での過ごし方を見ていると、危険につながる行動も見られることから、今後も学校全体で課題意識をもちながら、共通理解を図って児童がより安全に過ごせるような声かけを行っています。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	児童の安全のため、緊急時の避難の仕方については、今後も様々な場面を想定して指導していきます。特に、いつ災害が起こるか分からない現在の状況に対応できるように訓練、職員研修の充実を目指します。不審者対応については、教職員向け研修を再検討していきます。職員全員が、しっかりとした不審者対応ができるよう研修方法なども見直していきます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	教職員、保護者、児童本人のニーズに応じてケース会議を開催したり、面談を行ったりしながら、チームによる組織的な対応を行ってきました。今後も、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を図り、全職員で児童情報を共有しながら適切な支援を行うことができるように努めています。
9 組織運営	学校は、校長を中心とした運営組織となっている。	グランドデザインを常に念頭に置いて学校運営を進めることができました。今後も校長を中心とした運営組織の中、PDCAサイクルを実践して、よりよい学校づくりに努めていきます。また学校のみに留まらず、学校・保護者・地域が協力する視点を持ち、綾南小学校の目指す児童像の実現に向けて取り組んでいきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	今後も校内研究を通して、教師間の指導力向上、共通理解を図るとともに、日々の授業に生かすことができるようにしていきたいと思っています。また、教育に関する最新の動向や教職員のニーズをもとに、児童の指導に反映されるよう研究・研修計画を立案していきます。実施形態についても講義形式だけでなく座談会形式や実技講習など、教職員が意欲をもって学び続け、力量を高められるような内容となるよう工夫や改善に努めます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	児童についての情報共有を綿密に行うことで、一人ひとりの児童を学校全体で見守っていくことができると考えています。今後も継続していくことで、児童の実態把握に努めていきたいと思っています。児童一人ひとりのよりよい成長に向けて、適切な支援をしていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	来年度も授業参観・懇談会、個別面談、「学校へ行こう週間」、土曜授業参観を行うとともに、学校だよりへの学習活動の掲載などを通して、保護者や地域に向けて情報を発信していきます。また地域学校協働活動を更に推進すべく、様々な学習活動のみならず、委員会活動やクラブ活動などでも、保護者や地域と連携が図れるよう努めていきます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 ・全てのクラスで児童が意欲的に学習に取り組んでいる様子が伝わってきた。そのために、教職員はICTを活用したり、活動の形を工夫したりしていることが分かった。 ・自分の考えを自分の言葉で伝えられる児童が育っていることが評価できる。 ・毎年のことであるが、いじめ対策や児童理解について保護者と教職員との間で認識に差がある。保護者と地域の方と教職員がお互いにコミュニケーションをとれる場を多く設けることで理解が深まるのではないかと考える。 ・地域学校共同活動を推進していくためには、学校運営協議会で話すだけでなく、その意義や良さについて地域に発信し理解していただく必要がある。		